証となる感動体験

和歌山県・白浜町

ほんまもんの感動体験で心豊かに

海かがやき 山ひびく 清流日置川の里

紀伊半島の南部に位置する和歌山県白浜町は、歴史ある温泉と農林漁業が生業の地域です。「ほんまもん体験」は、一次産業が盛んな日置川地域を中心に受け入れています。山、川、海と三拍子そろった自然の中で地域の多くの人達と交流し、さまざまな体験を通して豊かな心を育み、人間力の向上を図りませんか。

体験交流は人を育てる

農林漁家生活体験（民泊）

民泊協力家庭が100軒。1軒に4人で400人の受け入れが可能。民泊家業体験では半日、1日のお預かり、または選択式で「ほんまもん体験」をお選びいただけます。

各民家では、お客さまではなく家族の一員としてお迎えし、作業を手伝い、祖父母の世代と交流し、家庭の団欒を味わい「心豊かな田舎の暮らし」を体験します。食事は主に自家食材とし食材を採りに行くことから始め、新鮮な野菜や魚が「ほんまもの味」を教え、日本の伝統料理、郷土料理のおいしさに気づきます。

共同調理で初めて経験する魚さばきに挑戦し、初めは魚の目が怖いとキャーキャー言いながらも生物の命を頂いて生きていることに感動し、野菜のみじん切りができるようになったと喜んだり、食事作りは楽しい交流の場であり学びの場です。

南紀州交流公社では、民泊先は人間関係構築力、心の平和教育の現場であり、食育・食文化伝承の教育機会であり、食生産を担う農山漁村の役割、一次産業の理解、命の尊さを学び、互いの人生に大きく影響を与える巡り合いの場となってほしいと願っています。

担い手の80代半ばのおばあちゃんは、「若者と会話ができるように社会の出来事も常に勉強しておく」とても楽しみにしています。

民宿での分宿

地域内には10軒の民宿があり、クラス別、男女別で分宿できます。

ほんまもん体験の品質、安全対策

安全で教育効果の高い受け入れ実施のため、防災対策と衛生対策の指導責任者を置き、年度初めに保健所、消防署、警察署の講習会を開催し、安全管理、衛生管理を徹底。またインストラクター研修会、民泊研修会や地区懇談会を随時開催し会員の資質の向上を図っています。特に災害時避難地図を作成し、緊急連絡体制を整え安全対策には万全を期しています。

「ほんまもん体験」

農林漁業、伝統工芸、歴史文化、味覚体験など、和歌山らしいプログラムが地域内でそろいます。

紀州備長炭の作業体験

和歌山県無形文化財の紀州備長炭づくりを通して、自然との共生、人々の知恵、伝統産業を学びます。「窯だし」は1300度の熱い炎との戦い。

林業間伐体験

紀州木の国で山を守り育てる林業は環境学習であり、間伐体験はのこぎりを使って木を倒し、危機管理も学習。

リバーカヌー体験

県立自然公園、清流日置川のカヌーツーリングは、木材を川流ししていた時代と同じルートで、人々の暮らしを守ってきた川文化を学ぶ。川面に跳ねる鮎を間近に見る野趣に富む感動体験。

3時間の「ほんまもん体験」は、生徒が主人公。地元で生業としている者、技術があり精通している者がインストラクターとなり、準備から後片付けまで指導し、人間的な交流の場になり、生徒の皆さんは大きな達成感を得て活き活きとした表情に変わります。

もう一度行きたくなる感動体験「南紀州ほんまもん体験」に地域一丸で取り組み、皆さまをお待ちしております。

アクセス

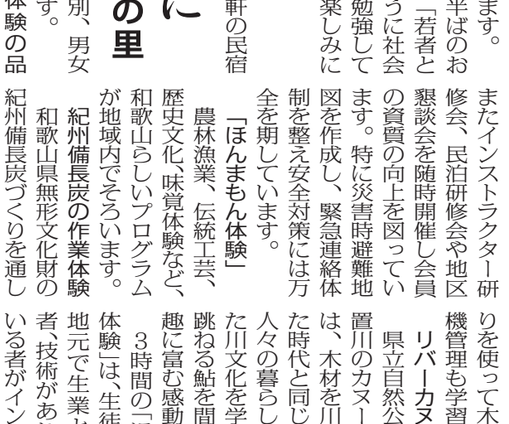
近畿自動車道「紀勢道」が開通し、南紀白浜IC、日置川ICが完成。新大阪からバスで3時間弱。JR特急くろしおで新大阪から紀伊日置駅3時間弱（貸切臨時列車利用、紀伊日置駅発着可能）。

涙のお別れ式

灼熱の備長炭窯だし体験

山を守り育てる林業体験

熊野古道安居の渡し


民泊家庭で夕食作りを体験

一般社団法人 南紀州交流公社
担当者：佐本　真志
〒649-2532 和歌山県西牟婁郡白浜町安居306-1
TEL 0739-53-0055　FAX 0739-53-0055
E-mail: minamikishu@samba.ocn.ne.jp
URL http://www.minamikishu.com

奈良県・飛鳥

飛鳥を知らない人は誰もいない。しかし誰も知らない飛鳥がここにある。

日本はじまりの地、飛鳥

Amazing ASUKA

「飛鳥」は物事が生まれ、築かれ、国が始まったところです。日本で育つ誰しもが学び、知らない人などいないことでしょう。だからこそ一生に一度はここを訪れ、その目でしっかりと「国のはじまり」の場所を見てほしいと考えます。おいしい空気を吸い、古代から命をつないだ虫や鳥の囀りに耳を傾け、この地で採れた新鮮な作物を食して頂くことを願います。この地で思いやる心が生まれ、信頼を築き、新しい自分が始まります。それはまさに飛鳥だから意味があり、古代からの遺伝子レベルで感じる何かが存在するのです。修学旅行生の皆さんにとって飛鳥が新たな出発点となってくれるよう心からお手伝いをいたします。

都会から近い原風景

飛鳥地域（明日香村、高取町、橿原市、桜井市）は京都、大阪から電車でわずか1時間程度。また車でも1時間半ほどの距離に古代を思わせる原風景が広がります。中でも明日香村は古都保存法制定の1966年に一部が指定され、1980年には村全域が歴史的風土特別保存地区に指定されました。銀行やコンビニまでもが瓦屋根に彩色壁など、明日香法により景観が守られています。また万葉集に登場する飛鳥川・甘樫丘、富本銭が出土した飛鳥池工房遺跡など数多く存在する歴史的文化遺産とこれらの周囲の原風景の中に溶け込んでいます。そんな環境の中で受け入れ家庭の皆さんと一緒に農作業、史跡巡り、食事作り、家業の手伝いなどを通して、深く交流し、共に学び高まり合うことを目的としています。

自然的環境が一体となって形成されていることが大きな特徴です。

民家ステイ体験

飛鳥でぜひ体験してほしいのは、古代の遺跡が点在するこの地で人々が育み続けてきたほんものの暮らし。当たり前のように遺跡と日常の生活が

「大人ってまんざらでもねぇなぁ」「近所の人たちみんな仲がいい」「野菜、おいしい」「おじさん怖かったけど、また会いたい」「ちかちゃん（受け入れ家庭のお母さん）大好き」などと、滞在時間が長い分だけ交流の深さが増して、帰る頃には涙する生徒も少なくありません。たった1泊あるいは2泊の短い時間に、初めて出会った人同士が共通の目的を持って共通の体験をする場。普段の生活では経験し得ない「心を遣う」交流が、より教育効果を引き出します。現在登録家庭は160軒を超え、一度に300人の受け入れが可能となりました。

飛鳥歴史ガイドツアー

奈良県内の大学生らとともに、ロマンあふれる飛鳥の歴史や文化を学ぶコミュニケーションプログラム。自転車や徒歩で飛鳥の史跡を巡る歴史ガイドツアーの他、奈良県立万葉文化館内で交流型グループワークをご用意しています。自己紹介に始まり、クイズ形式で歴史を学び、個々の意見を交換、最後のまとめ発表まで、活発な意見が飛び交います。学生同士の交流だからこそ分かり合え、これから社会に出る子どもたちの心に深い経験をもたらします。飛鳥の歴史的風土を体感し創造力や発言力、協調性が育まれることを目指します。

都会から近い原風景と呼べる美しい飛鳥の棚田

感動のお別れ

心通う交流の後で離村式

石舞台古墳での体験プログラム

飛鳥ニューツーリズム協議会
〒634-0112　奈良県高市郡明日香村島庄5番地（明日香村商工会館内）
TEL 0744-54-1525　FAX 0744-54-1526
E-mail info@asukacom.jp
URL http://asukacom.jp
Facebook 飛鳥ニューツーリズム協議会

滋賀県・近江日野

古都の歴史文化学習と人との交流の両立

三方（さんぽう）よし！近江日野田舎体験

組織充実のため法人化

2008年6月に都市農村交流推進のための地域協議会として発足した「三方よし！近江日野田舎体験推進協議会」は、コーディネート組織としての機能強化を図るため、今年5月1日付けをもって「一般社団法人近江日野交流ネットワーク」として歩みを進めることになりました。

これまでに、旧「三方よし！近江日野田舎体験推進協議会」に賜りましたご芳情に深く感謝申し上げますとともに、新「一般社団法人　近江日野交流ネットワーク」に対しましても倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

近江日野田舎体験で心温まる、心高まる交流を

近江日野の農村生活体験（民泊）は、先生方の本部宿からわずか15分圏内に150軒の受け入れ家庭を有し、収容人数は600人になります。1軒4人を基本に分宿し、その時期にある作業やものづくりなどをそれぞれの家庭で体験します。体験することが目的なのではなく、体験を通して交流を深め、人としての成長を促すことが最も大切だと、近江日野田舎よしの精神で全国に名を馳せた近江日野商人発祥の地です。近江日野商人の「三方よし」の教えにならい、生徒個々の生き方を育む近江日野田舎体験と、このような立地の利便性から京都、奈良での歴史文化学習との両立プランは、数多くの学校にご支持をいただいています。

近江日野に住む者がこの地に生きる理由、誇りを語り、伝え、訪れる側、迎える側それぞれの人々が、自分と自分を取り巻く人々を認め、自分が存在することの意義、価値に気付き、明日の生きる力を得ることができる、人と心が高まる旅「近江日野田舎体験」へのお越しをお待ちしています。

アクセスは良好

日野町へは、京都、奈良、名古屋から約1時間半でお越しいただけます。名神高速、新名神高速主要インターからも約30分と、関西圏・中部圏との交通アクセスは大変良好です。また、日野町体験は考えています。

離村式での別れに思わず涙する

農業体験（田植えの準備）

民泊家庭の人と畑作業

民泊家庭で夕食作りを体験

一般社団法人　近江日野交流ネットワーク
担当：中森雅之・西河佳子
行政支援：福本修一・寺本昌弘
〒529-1602 滋賀県蒲生郡日野町河原1-1
日野町商工観光課内
TEL 0748-52-6562　FAX 0748-52-2043
E-mail inakataiken@omi-hino.jp
URL http://www.omi-hino.jp/

福井県・若狭美浜

若狭美浜で真心を探してみませんか

福井県若狭美浜は古くから京の都に続く食の道としての役割を担ってきました。京都から約2時間の美浜には日本の故郷の風景があります。山には木々が生い茂り、清らかな川や湖には魚棲み、町の名の通り日本海に面した美しい浜が続きます。人々は自然の恵みを頂き、それを生業としてきました。このような資源を生かし、「漁業」「農林業」「自然・アウトドア」「味覚」「工芸・歴史文化」とバリエーションに富んだプログラムを整えています。

「若狭美浜はあとふる体験」では、地域の自然、歴史、文化、産業に根ざしたありのままのくらしの中で、体験者と地元住民との「ほんもの体験交流」を通じ、人と人とのふれあい、人と自然との関わり、生活文化の価値の大切さ、人の温かさを伝えたいと取り組んでいます。昨年は、多くのお客さま、地域の皆さまのおかげで10年目を迎えました。今年度から新たなを通じて力を合わせ地域のため、日本の将来のために邁進していきます。

おすすめ体験プログラム

民泊体験

若狭美浜はあとふる体験では、現在、人間関係の希薄さが問題となっている中、民泊体験を通じて、人の温かさ、自分を応援してくれる気持ちを肌で感じる機会を大切にする「心の平和教育プログラム」として「田舎の温かさや人とのつながりの大切さ」を伝えています。

子どもたちは、初めて出会う新たな家族と緊張の面持ちで対面します。けれど、一緒に食事の準備をし、みんなで食卓を囲んで団欒するうちに、互いに歩み寄ろうとすることから交流が生まれます。ここで、大人や異年齢の他人との交流の方法を学ぶのです。受け入れ家庭も、たった1泊とはいえ、子どもたちの話を聞くうちに親しみを覚え、別れの際には「またおいで」と声をかけます。

修学旅行が終わり、日常に戻った生徒たちから、卒業後の進路について手紙が届くことがあります。受け入れ家庭では我が子のように彼らの成長や進学、就職を喜びます。偶然結ばれた数日間の縁がそれきりにならず、絆がつながっていくところに美浜の民泊体験の魅力があります。

ボート体験

「若狭美浜はあとふる体験」特有のプログラムがこのボート体験。チームワークの大切さを肌で感じ、人間関係を構築する能力を育むことができる人気プログラムです。

漕ぎ手4人とコックス（舵とり）1人が艇に乗り込み、湖を漕ぎ進みます。「一艇ありて一人なし」という言葉のように、1人が頑張っても速く進まず、全員の呼吸が一つになった時、初めて湖面を滑るように進むことができます。それぞれが自分の役割を理解し、その役割を全うしようと努めることで、信頼関係が生まれ、体験を終えた後には仲間と一つになった喜びを感じられること間違いありません。

大敷網体験・食体験

大敷網は、若狭湾の豊かな海に敷き広げておいたスケールの大きな網を、漁師が船で取り囲み、引き上げていく若狭地方の伝統漁法です。漁師と一緒に網を巻き上げることで、漁業の大変さや喜びを学ぶことができるキャリア体験の機会となります。食育体験では、先刻までピチピチと飛び跳ねていた活きのよい魚を自分の手でさばくことで、まさにその命を自分がいただいているという実感が生まれます。

「若狭美浜はあとふる体験」では、初めて出会う人と交流を深め、学校生活をともにする仲間と同じ達成感を味わうことができます。一生に1度の修学旅行。「ほんもの」の体験交流を通して、心の平和、人間関係の構築能力、豊かな人間性を育んでいただきたいと願っています。

心を一つにボート体験

心のふれあう民泊家庭でありのままを体験

地引き網

若狭美浜はあとふる体験推進協議会
NPO法人はあとふる美浜ネットワーク
担当者：林正人
〒919-1122 福井県三方郡美浜町松原35-16-18
TEL 0770-32-2222　FAX 0770-32-2239
E-mail:tabikobo-hayashi@air.ocn.ne.jp
URL http://www.heartful-mihama.com/